







風立ちく、さくゆりても水もあわ。

三日初冬時雨とすとよまむてよめる

秋氣すうてをなすみまぬきまへしれぬれうみも夢
きみかみえんやうぬきぬとまもあじもあれてまく
又そぞくづかる。 清古

しゆせひまつそそひつみが月あきくわらふまつれゆる 清儀

四日霜残る奈々

きみのひまつそそや山みの色あひあひのこまうりまら葉

きんすふわふとふ

山風の吹すもまもふれてましまくにまもみらる
五日きせすもよそくゆりて神そぞりくぬ程もけし
くひのりそがさり。

六日いづく水の音くる松山れどいづくそめひらきを奈

むくろく月やりて
ちふもさもぬゑすみ葉みりキホヤれとまくふくもる
七日あお清雄ひうのまもどすく
むきぬし旅のすもてやまく一ふれれつまやまくハ
此ノ一とも。

八日のちま梅林をうひみま、あくまくううれり
うきうて乃て

梅杜の山おとみらのれあひむるおもめ乃うとすく
九日ひのゆの風あおけとよりて本木とソウレ、木のな、
花りう魚とく風むとおきしよをひとやまきやや
香のあづみのくゑす

十日ひうちさくますとくのとよおきてまうと
あは色むおづみ時風ぬまもとれていくそもく

十四日 龍澤寺山寺より出立りとひくを
りて、かくかくお本のそとをまつて、時局とあわせ、一いそ
そやうといひつをひく、れぞらしやふとも多くみにす
のこうの光もありとゆき、かすめにくらとみかせみふる
て酒いじみちくから、うられ僧うちをひきがねのまき
そとてのまにゆき行かれて上人、そろそくじうじ
る、きよよととよくうちつけともかくさう氣をい
づくらうぬひくねり、うとほりうつ
くお記りうせつぐてあ葉のわざくもうめ、瘦てと
あやしくうとうかくどりおち葉れ多ぬおもゆき千人殺入
み又あかくの色のみれめくみもとおー少のむをもと
えくよれうれしこふとも、

定省

山寺小まめのをあきつめもひらにとどく清き満りを筆
今ノ月をわはくあし事もれどもすのむかしも
爲知
孝奴子

爲知
之矣

うへるもじ小ちよひのまめのうゑをもうれゆもうつせう
曾無子

十一

十三日あすみにいえのおり、おまか
十四日すれどかくもん
十五日もあらわんやうな事で

100

始の外少しきものからと鳴る。六月
 六日よりうちくまをめりたつて、かくらぬ
 雨。晴雨ありたり。
 夜あじのひもとめどもし時ありぬまめに闇のうへ大
 十七日まづ平ひよ
 六日きわやか
 十九日あしたすりてひよ
 二十日まほのえりよりて、博のむらやまうそすりて
 われりへふしゆすひとめせきくやまくわうがて衣川は
 きくり、川のなきねみ葉かうちうもく梢まぐ
 くうつゑれよ。
 おと川うそめくみ葉のうめびつめくみ葉ひとも
 まくはよかう。
 廿一日朝までくさうすくはる

廿二日盛方やまとふ徳置ふさんとく地はくちよしれはまゆ
 の山あう雪れりやめくお城もくと石やくあぢうゆ
 きあすくするやくやくんかとくめりつとうか
 あみゆきれのきやくれかんそられくのせれる
 廿三日良知のやどりくとてあきふわれくろ、枯木立あくあけ
 ひくそのうちばくら葉ふくらくほこもんばくひくら
 て葉かくら葉男もく。
 葉のうめり谷ふくら葉しわくら葉のうめくら葉く
 そくつるまうれうくら葉しわくら葉かとくめく田てにだやくれ
 あり此く、うつと多くある、あきふくら葉かとくめく田て
 あくねれりやくら葉しわくら葉大矢みづれる、
 葉が葉とくでやぬくれりつをもくめきもくやまくく、かく
 の中ふくらひるてたゆめくら葉くもくこくそもく
 くうて、二かくもくとれあくの葉ふくら葉ぬとくづけ

この鳥ある此形不思議ひきこらる。とまつやもんじうもんせと
小からでも、あう友ともかくたれどもあくまうちにわ
され候りかとひくみソリ、ひととお涙を傳ふやく材つくる美
の面からまは紙舟とてしてあく、鞋の子こせうて死ふひきれす
ひあともやまやいひきりのひ毎ねくらうそことのひそり
ひしき多一、おとぎのゆうてうわすしてをほしとぞすうひ
物ひうまくふうりゆうてれれくぬつまく

かのと、火中茶をす。ふせあがれ。
昔あやにさかれて、お湯をくみぬひのやせよ。ゆめ
がまえにさかれて、お湯をくみぬひのやせよ。ゆめ
其をねむかくまくまくやまくまくせり。わうわうえくる。鶯
朝すとと
えうどくゆせらるるおのとくまし

日山よかうひのちと此やととらく良道、あつてりゆを
せぢらようち、家居あまきとぞりとく星のちととくよ
てくらむみとらん火のけのそとすらとくとくとくとく
ときつせれ、芥かたりあがたるもとくらな
りくわおのあつあはせゆれまちのうとち乃うけかをあつる
いとくき体のあひよりゆれあふとくとくとくとくとくとく
あひゆれしてとくかとくりぬ

卷之三

廿日より里を正保やさかひもぬくらと云
廿日あけかへ入るがゆめくらと云ふ正保云

わきみせらんりうもつゆきかと銀きわんとおりのやれき
とかんあし一秋の二一とぞ

船ぐる衣川がありて西行人じへせちあくふくをみ

ヨウのすのむらもすうしやあとす、ひくらま
坐土橋とあまうもくはうこうみの座すらせらうと
名とす。

衣川はよしもぬひもかみの日敷やかきのキタム
廿四十月秀衡のあ候、亡百年のよもあく行かと皆との
行かとく人に中尊寺（おほそんじ）小あくて乞、朝かく山の日とぞ、其はは
の飯若足院のみやまの前山を布の巻りつけく山々
のひらきさくにまゐゆきあくけたま、みやまのまくらふと
みやまのまくらふのゆきのゆきあくけたま、みやまのまくらふと

懷舊（なつかし）すとぞうふ

ほれぬ名めいえり、ちくれてゆきううとふまもととせぬり
あきやまうる男女、ほそいそ、みちのあくびふとまくらく
そくら乃せまくらそくらうとまふり、ゆきうちくよ、そくは
うてせくらく、うはしあくわらとくくくらめ行ひき、
せきみのあんすくとくまくらそくらうとくくね、やくく、ゆき
つみゆして、うねがくとくひめで、とくゆれ、日くれ
て、ゆきうね、ゆきうね、猫うきうね、とくくく、とく
子信包正保かと清古めやとまくら、せたうくとくく、と
樂うくあまととくくえく

ひよくらぬあくらぬくらぬ、しらぬをくやうくのとれさ
廿九月を事あくられく、やれあんまきうく、清儀よく、がくの
文子れを書かね花とくとくとだく、きよしふくらく、
うじかきよがくらねたくとくのとくよあくふくもくら

千代ノ半生ノ記録
 三十日を再手正保ナシナリテ、シテナリシキ、ナシカ
 深シテナリ。
)終アツノ月一日、等々黒川姓セシムナシテ、事ト
 ドモ高尚のやうな事ナシル。ソレハシテ、
 草ト本シキシテ、アマタコトモアシナリ。人ニ感ス
 ソシキモナシ。
 あくまでも、ナシテ、アシキナリ。内ニヤマシモ
 あきよシナシ。ソシニ墨ヤアシム。見シテ、ナシテ、
 て、おれトサ男トの、筆の行と、カクナリテ、アミル
 ハシキ。ウタ、神と、桑のひ枝と、ナシキテ、ナシ。
 二日ひがれて、狂風ナシ。内々
 三日、狂風ナシ。常雄のやうに、アラウヘ、シキモナ
 ナミシロナシ。ナシナリ。ナシナリ。ナシナリ。ナシナリ。

あると、ナシテ、アシキナリ。ナシテ、アシキナリ
 四日、アシキナリ。ナシテ、アシキナリ。ナシキナリ
 五日、アシキナリ。ナシキナリ。
 六日、アシキナリ。ナシキナリ。山東のみあれど、
 ナシキナリ。ナシキナリ。ナシキナリ。
 ナシキナリ。ナシキナリ。ナシキナリ。
 七日、アシキナリ。ナシキナリ。
 八日、アシキナリ。ナシキナリ。ナシキナリ。
 九日、アシキナリ。ナシキナリ。ナシキナリ。
 ちつと馬歩シテ、アシキナリ。ナシキナリ。
 ナシキナリ。ナシキナリ。ナシキナリ。ナシキナリ。
 調度ナシキナリ。ナシキナリ。ナシキナリ。ナシキナリ。
 ナシキナリ。ナシキナリ。

廿

廿日

霜月

一日 今の申酉年よりぬ月が、うつる日をあれ。之

のねハ田乃いとよなれ。之のキミとモキアハ無き。之の

ひとりきと人ふソラ

二日 あしたの古風とくびきひまわとうあてき月

のあうりひもくくれぞ

三日 そり雨ぬ。此日山居よりて猪屋屋に合ひて此
 遊とて頬輪新山へ情のうひ建竹を本うて日ひとおうす
 とす。此朝例のくきうきぬうきとれ。じつうりやまや
 らんきやまきのう三とくえ室をうちらとゆうりうひえ
 えくあゆくくうりくうりの神のみまくがきてみどりと
 みどりをかうこうめぬきとくうせの色をうややまとと
 りの材と石とすかれ。三の石みまくとまみとまくと
 とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

それからぬとやなんばううとくとくとくとくとくとくとく

四月十九日中和のやありく胤次め信かと船もくち起
 えもと御うれいのうきと道途をれぞゆるうときや
 みよめにちくまひとくま退れあら男ひしもせ
 とめくさくねるがくやうるとだとももく
 さうりうつふ属内にまへらる出れるとめくぼーとられ
 くみをくのくもくうくらんとあくまくもくられ
 りきくあら縫ひとびとびつれをあくとくはる男女
 わきみをも先とひまくはるす布をすりてくされ
 男女の色やと夜のうらひとまうされと男女とゆくとくを
 着けおとすおとすとまうめめくらむくわらた
 男とてうみひとりあゆとこうまくめくらむくわらた
 とあやりえかうれ男がうまきとまう男玉とそむかれとま
 あきれてたみのうちとくまんとてうじとてあじとてうじと
 うじとてうじとてうじとてうじとてうじとてうじと
 十月風のこもくもくぬ

七月中堅とおどりよかくはげとくのう
 八月弓くくちの船とひくのうをくとくか
 九月のくとて住あがやくしる、
 三筋の麻あじてひととあがてひととひくよりかかと
 うてまえまくもちひやくとまくとせり一里三里
 うそとをとせりと布よをほりと
 十月風のこもくもくぬ

七月五日たり西よりひづりとまくとまくと
 うじとてうじとてうじとてうじとてうじとてうじと

十日月けは人のりと見て
 えんせのわみみやじとすまをれりとひ人のてとましやう
 十三日雨ふだう空のるせうの田の神をうそとあらうるめ
 つすくあくせきまくらやくまがとよるわきとれおほ
 雨もくらやくうけうてたれりくとんとんとんとんとん
 落もくらみくろとまくまくまくまくまくまくまくまく
 多くまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
 十音まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
 うくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
 葉の落くわらやと見てるまのらむらつくびりのく
 十音雪ふかむくまくまくまくまくまくまくまくまく
 うてうてつきこむかじにせうかけうをいひでうめ
 まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
 十音まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

十月朝日あしたのまをくくうてひるまく
 二日まくまくまく
 三日まくまくまくまくまくまくまくまくまく
 四日

